岩手県工業技術研究推進会議 食品技術部会議事録	(実施日) 平成16年10月27日(水)

(テーマ名)

生分解性プラスチックの適正使用のための分解菌データベース作成
(中間評価)

委 員	質 問・意 見	回　　答
B委員	予算の割に、また色々な素材が対象で大変だと思うが、素材自体は集められるものであるから、堆肥にすることを考えてみては？	現実的には堆肥化の方が(分解の)効率がよい。
	シート状にして堆肥の様にするのが実用的。実用的なことを考えると別の試験法があると思う。	形状についての試験はすでにやられおり、その次の段階の試験。
	(上記、B委員の発言に対して)	(企画情報部長) 堆肥のように高温多湿側のものはテストされている。今回の試験は、実際のフィールドではどうなのか？という試験。
		(プロジェクト研究推進監) ビニールマルチシートは土壌中から取り除きにくく、また切れて残る。すき込んで分解する方が楽。
D委員	岩手県は様々な土壌があり、それらの土壌でテストすると良いと思う。	重要な視点であり、検討したい。
F委員	測定回数が少なく感じたが、福島県は入っているのか？	本県の担当は、岩手、秋田、宮城の3点である。 福島県は他の公設試が担当して実施。 各地1点づつの測定であった。
A委員	生分解性プラスチックは随分前から出ているが普及していない。なぜ普及しなかったかを検討する必要がある。	一番の問題は価格面。 価格以外の課題に、この研究が役に立つはず。 (B委員)普及には値段だけが問題。 マルチシートの場合では、3～5倍の値段。 今後は、ポリ乳酸系の普及が見込まれる。
B委員	(従来の)石油系プラスチックをなぜ研究対象としないのか？ 国の産業総合研究所の責任になってしまうのだが･･･。	そのような視点での取り組みも必要と思う。 ただし、仮に分解できたとして、分解物の有害性を考える必要があり、この点でも生分解性プラスチックは(安全性に)優れている。